

文-75

V(ら)れます (受身)

N1	は/が	N2	に	V(ら)れます
----	-----	----	---	---------

N1 : Vの行為の受け手

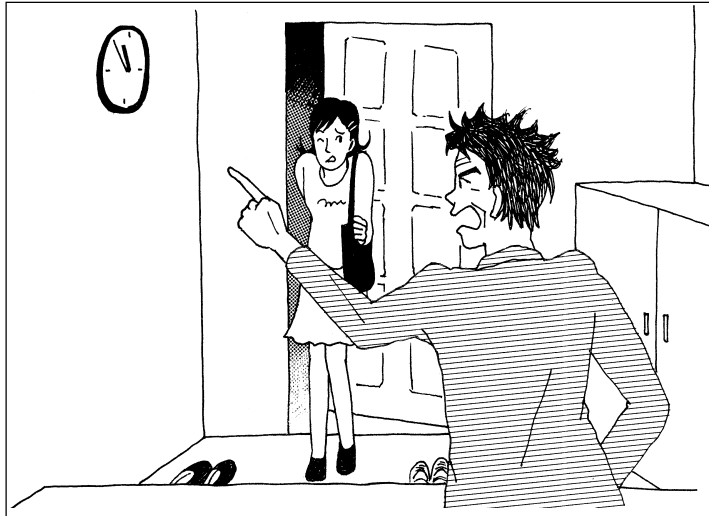
N2 : Vの動作主

V(ら)れます : 受身形

基 本

例 文

- ① わたしはおばあさんに道を聞かれました。
- ② 姉は、夜遅く帰って、父にしかられました。



例文②

- ③ 財布を落としたので交番へ行ったら、おまわりさんにいろいろ質問されました。
- ④ 子供のとき、犬にかまれたことがあります。
- ⑤ A : どうしたんですか。うれしそうですね。
B : スピーチがじょうずにできて、日本語の先生にほめられたんです。

解説

- A. Vの動作を、その動作の受け手(N1)の立場で述べるときに使う。(例文①～⑤)
- B. N1が話し手、またはだれかわかっている場合は、「N1は/が」が省略されることがある。
(例文③～⑤)

発 展

例 文

- ⑥ 2000年に沖縄でサミットが開かれました。
- ⑦ この歌は、カラオケでよく歌われています。

解説

- C. 社会的事実を述べるときに使う。その場合、動作主(N2)は特定されない。(例文⑥⑦)

先生へ

Vは他動詞。(p.280参照)

話し手の意志に関係なく起こったことで、迷惑と感じる動作、行為を述べるときに使う用法はここでは扱わない。

- 例1 突然雨に降られて、ぬれてしまいました。
- 2 友達に0点のテストを見られて、はずかしかったです。

【関連項目】

活-08 受身形

【「れんしゅう編」の練習】

- 19-3 十二支の中にねこがない理由
- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告
- 20-6 いろいろな未来

文-76

Vてもらいます

N1	は/が	N2	に	Vて	もらいます
----	-----	----	---	----	-------

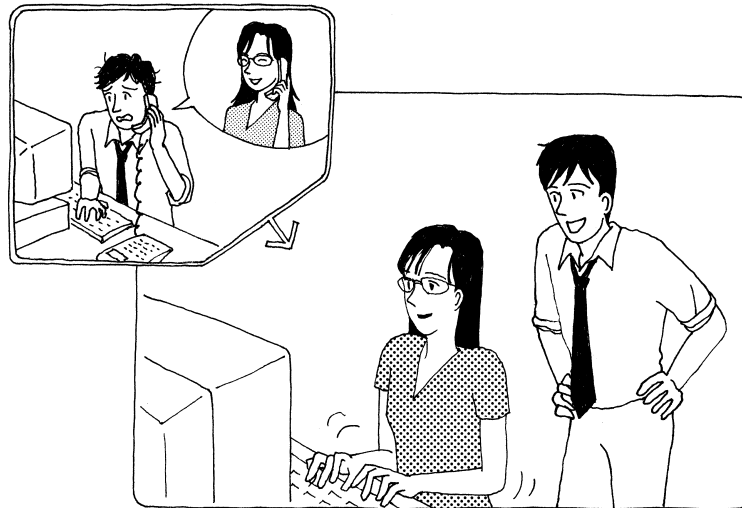
N1: Vの行為の受け手

N2: Vの動作主

基 本

例 文

- ① 昨日、わたしは、中田さんに年賀状の書き方を教えてもらいました。
- ② 山本さんに日本の写真を見せてもらいました。
- ③ 雨が降っているので、山田さんに車で送ってもらいましょう。
- ④ 明日は忙しくなりそうなので、中田さんにも手伝ってもらうことにしました。
- ⑤ コンピュータが動かなくなったので、中山さんに直してもらいました。



例文 ⑤

- ⑥ A: 「 × 」はどんな食べ物かわかりましたか。
 B: 田中さんに聞いて、説明してもらったんですが、よくわかりませんでした。
- ⑦ 山中さんに日本から送ってもらったTOKIOのポスターは、わたしの宝ものです。

- A. N1の要望に応じて、N2がVの行為、動作をすることを表す。(例文①～⑦)
- B. N2は話し手にならない。
- C. N1が話し手、または話し手を含む人たちの場合は、「N1は/が」は省略されることがある。
(例文②～⑦)

先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vてもらいますか」は、だれかにVの行為を依頼するかどうかたずねるときに使う。

例 A: だれかに手伝ってもらいますか。

B: そうですね。中田さんにお願ひしましょう。

Vが「教える、貸す、送る」などの物や知識が移動することを表す動詞の場合、「に」が「から」になることがあるが、学習者が混乱するのでここでは「から」を扱わないほうがよい。

例 田中さんから本を貸してもらいました。

話し手の利益となる行為について述べる時、「Vてもらいます」を使わず、客観的な事実を述べる「Vます」を使ってしまふ誤用が多い。「Vます」では、行為をした人に対して失礼になることがあるので、注意させること。

例 中田さんがわたしの宿題を手伝いました。(客観的な事実)

中田さんに宿題を手伝ってもらいました。(感謝の気持ちが含まれる)

「Vてもらいます」を正確に使えるようになるためには、「ウチ・ソト」の関係の理解が必要である。

(p.276 参照)

「Vてもらいます」と逆の方向性の行為を述べる表現「Vてあげます」は、p.277 参照。

【関連項目】

- 活-01 て形
- 文-51 もらいます
- 文-77 Vてくれます

【「れんしゅう編」の練習】

- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告

文-77

Vてくれます

N1	は/が	N2	に	Vて	くれます
----	-----	----	---	----	------

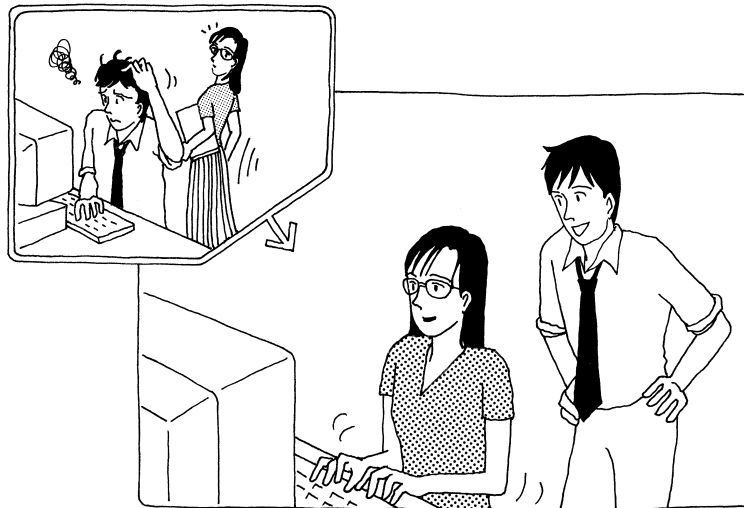
N1 : Vの動作主

N2 : Vの動作の受け手

基本

例文

- ① 山本さんは、よく、わたしたちに料理を作ってくれます。
- ② 風邪で学校を休んだら、次の日、中田さんがノートを見せてくれました。
- ③ 傘がなくて困っていたとき、中山さんが貸してくれました。
- ④ 中田さんは、わたしの財布をひろって届けてくれました。
- ⑤ コンピュータが動かなくなって困っていたら、中山さんが直してくれました。



例文⑤

- ⑥ A : 山本さん、この間送ったわたしのメール、読んでくれましたか。
B : えっ、いつ送ったんですか。届いていませんよ。
- ⑦ 荷物を持ってきて、ありがとう。
- ⑧ 先週、中山さんはわたしを食事に招待してくれました。

⑨ A : 電車でんしゃに間まに合あいましたか。

B : はい。山田やまださんが駅えきまで車くるまで送おくってくれましたから。

解説

A. N1がN2の利益りえきになる行為こうい、動作どうさをするあらわことを表す。(例文①～⑨)

B. N1は話し手はなにならない。

C. N2はたいてい話し手はな、または話し手はなを含む人ひとたちなので、「N2に」は省略しょうりゃくされることが多い。
(例文②③⑤⑦⑨)

D. 「N2に」が「N2を」「N2の」になることがある。

「N1は/が N2のN3を Vてくれます」(例文④⑥⑦)

(N3はN2の持ち物もや体からだの部分ぶぶん)

「N1は/が N2を Vてくれます」(例文⑧)

(N2はVの動作どうさの対象たいしょう)

先生へ

「N2を」となる場合、Vは「案内あんないする、選ぶえらぶ、起こすお、送るおく、しかるしょうたい、招待そだする、育てるたす、助けるて、手て伝つたう、ほめるみ、見つけるむか、迎えるよ、呼ぶどうし」などの動詞。

N2が話し手はなのウチての関係かんけいの人ひと(p.276参照)になることがあるが、ここでは話し手はなまたは話し手はなを含むグループぐるーぷに限かぎって練習れんしゅうしたほうほうが混乱こんらんしない。

例 山田やまださんは、妹いもうとに日本語にほんごを教おしえてくれました。

Vには無意志動詞むいしどうしを使うつかこともあるが、ここでは意志動詞いしどうしだけで練習れんしゅうしたほうほうがわかりやすい。

例 ずっと雨あめで、なかなか晴はれてくれませんか。

話し手はなの利益りえきとなる行為こういについて述つべるとき、「Vてくれます」を使つかわず、客観きゃっかんてき的な事じ実じつを述のべる

「Vます」を使つかってしまう誤用ごようが多い。「Vます」では、行為こういをした人ひとに対して失礼しつれいな表ひょうげん現げんになるので、注意ちゅういさせること。

例 山田やまださんはいろいろりょうりな料理つくを作きりました。(客観きゃっかんてき的な事じ実じつ)

山田やまださんはいろいろりょうりな料理つくを作かんしゃってくれました。(感謝きんしゃの気き持もちを含ふくんでいる)

「Vてくれますか」は命令めいれいに近い依ちが頼いらいを述のべるときつかに使つかわれるので、いっしょに練習れんしゅうしないほうほうがよい。

「Vてくれます」を正せい確かくに使つかえるようにするたかんけいめには、「ウチ・ソト」の関り係かいの理ひつよう解かいが必要ひつようである。

(p.276参照さんしやう)

【関連項目】

活-01 Vて形

文-76 Vてもらいます

【「れんしゅう編」の練習】

19-5 お礼のカード

19-6 山田さんへの手紙

19-7 ホームステイの報告

S そう です

じょうたいけい
S：常体形

基 本

例 文

- ① 田中^{たなか}さんのお母^{かあ}さんは医者^{いしゃ}だそうです。
- ② 山田^{やまだ}さんの手紙^{てがみ}によると、今年^{ことし}の日本^{にほん}の夏^{なつ}はいつもより暑^{あつ}いそうです。
- ③ A：三社^{さんじゃまつ}祭り^みを見^みに行^いったこと^いがありますか。
- B：いいえ。でも、山本^{やまもと}さんの話^{はなし}では、その祭り^{まつ}はとてものにぎやかだそうですよ。
- ④ 天気^{てんき}予報^{よほう}によると、あした^あは晴^はれるそうです。
- ⑤ 新聞^{しんぶん}によると、日本^{にほん}で地震^{じしん}が起^おこったそうです。



例文⑤

- ⑥ A：知^しっていますか。中田^{なかた}さん、手話^{しゅわ}ができるそうですよ。
- B：本当^{ほんとう}ですか。じゃ、今度^{こんど}教^{おし}えてもらいましょう。
- ⑦ A：中田^{なかた}さんは週末^{しゅうまつ}のスキー^いに行^いけないそうです。
- B：どうしてですか。
- A：手^てをけが^けがしてしま^まったんだそうです。

解説

- A. 話し手が聞いたり読んだりして得た情報をだれかに伝えるときに使う。(例文①～⑦)
- B. 情報源がはっきりしている場合に使う。情報源は「～によると」「～の話では」で示すことができる。(例文②～⑤)
- C. 「そうです」は過去形、否定形、疑問形では使わない。

先生へ

「そうです」は「だろう、みたいだ、ようだ」の後には使えない。

「そうです」(様態)(p.222)とは、A、AN、Vの接続形が違うので、注意すること。

例 この料理、おいしいそうですね。(様態)

山田さんのお父さんの料理はおいしいそうですね。(伝聞)

【関連項目】

活-05 常体形
文-71 そうです(様態)

【「れんしゅう編」の練習】

19-1 伝言ゲーム
19-2 新聞を読んで
19-3 十二支の中にねこがない理由

<グループ1>

う	われる	つかう	つかわれる
く	かれる	かく	かかれる
ぐ	がれる	さわぐ	さわがれる
す	される	はなす	はなされる
つ	たれる	うつ	うたれる
ぬ	なれる	しぬ	しなれる
ぶ	ばれる	はこぶ	はこばれる
む	まれる	たのむ	たのまれる
る	られる	とる	とられる

<グループ2>

る	られる	みる	みられる
		おしえる	おしえられる

<グループ3>

する	される
くる	こられる

先生へ

受身形は動詞の活用形の一つ。

受身形の「ます形、ない形、て形、た形」などは、グループ2の動詞活用と同じ。

例 よばれる よばれます
 よばれない
 よばれて
 よばれた

受身形を持たない動詞がある。

すでに受身的な意味を持つ動詞：見つかる など

無意志動詞の中の状態動詞：ある、要る、かかる など (p.279 参照)

可能、自発の意味を持つ動詞：見える、聞こえる など

【関連項目】

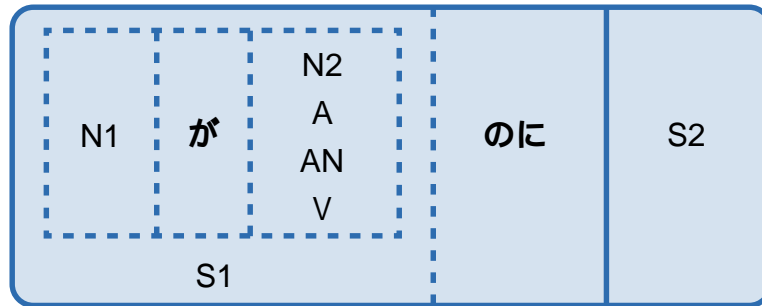
- 活-03 V 辞書形
- 文-75 V(ら)れます(受身)

【「れんしゅう編」の練習】

- 19-3 十二支の中にねこがない理由
- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告
- 20-6 いろいろな未来

助 - 32

のに



N2 / A / AN / V : 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

基 本

例 文

- ① 梅雨^{つゆ}なのに、雨^{あめ}がぜんぜん降^ふりません。
- ② 田中^{たなか}さんは家^{いえ}が近^{ちか}いのに、よく遅^ち刻^{こく}します。
- ③ 波^{なみ}が高^{たか}くて危^き険^{けん}なのに、サーフィン^{サーフィン}をしてい^{して}る人^{ひと}がいます。
- ④ 風邪^{かぜ}で熱^{ねつ}があるのに、中山^{なかやま}さんは授^{じゆ}業^{ぎよう}を休^{やす}みません。
- ⑤ 一^{いっ}生^{しょう}懸^{けん}命^{めい}勉^{べん}強^{きやう}したのに、試^し験^{けん}に落^おちてしま^{しま}いました。
- ⑥ A : 田中^{たなか}さんは？
B : もう帰^{かえ}りました。
A : いっしょに帰^{かえ}ろうと思^{おも}ったのに。
- ⑦ A : き^まのう、ず^まっと待^{まち}っていたのに、
どうして来^こなかつたんですか。
B : ごめ^きんなさい。急^{きゆう}にお腹^{なか}が
痛^{いた}くなつてしま^{しま}ったんです。
- ⑧ あ^たとで食^おべようと思^{おも}って冷^{れい}蔵^{ぞう}庫^こに
入^いれてお^おいたのに、だ^たれが食^たべた
んですか。



例文 ⑧

A. 「S1 のに S2」で、S2 が S1 から当然予測される状態、結果とは食い違っていることを表す。

(例文①～⑧)

B. N1 が話し手の場合、不満、残念だという気持ちを表す。(例文⑤～⑧)

C. S2 で表されることがわかっている場合には、省略されることがある。(例文⑥)

D. 質問文は、「S1 のに、S2 んですか」の形になる。(例文⑦⑧)

先生へ

S1 と S2 は、事実(すでに起こったことや現在の状態)、または話し手の判断でなければならない。

S2 に、以下のような意志的な表現は使えない。

依頼：Vてください/Vてくださいませんか など

意志：Vよう/Vようとおもいます など

願望：Vたいです など

誘い：Vましょう/Vませんか など

禁止：Vてはいけません など

「のに」と「ても」「が(接続)」との違い。

	S1 のに S2	S1 ても S2	S1 が S2
S1 が話し手の仮定したこと	×		×
S1 が実際にあったこと、したこと			
話し手の気持ち	残念、不満、 期待はずれ	-	-
依頼、意志、願望、誘いなどの文末表現	×		

【関連項目】

活-05 常体形
文-58 ても
助-16 が(接続)

【「れんしゅう編」の練習】

19-4 手紙を出したのに
19-7 ホームステイの報告